

弾道ミサイルなど

武力攻撃やテロなどから

身を守るために

国民保護とは、外国からの武力攻撃や大規模テロなどから国民の生命・身体・財産を守るための仕組みです。万が一、大規模テロや外国からの武力攻撃が発生

国民保護って何だろう

外国からの武力攻撃やテロなどの事態に遭遇した場合、身の安全を守るために、私たちはどのように対応すればよいのでしょうか。「もしも」の時の備えを紹介しします。

現在最も身近な脅威となっているのは、北朝鮮による弾道ミサイル攻撃です。このミサイルは、核弾頭や通常の破壊のための弾頭、生物化学兵器などさまざまな弾頭があります。その射

現在最も身近にある脅威とは

した場合、市民の皆さんの「避難」や「救援」などについて、国や都道府県、市町村が連携協力して行うものです（9ページ参照）。

弾道ミサイルが発射されたら、緊急速報メールやテレビなどの情報を基に、冷静な行動をお願いします。

弾道ミサイルが発射されたら

皆さんにお願いしたいこと

程は日本全土に及んでおり、いつ発射されるかは予測困難で、発射されれば、わずか10数分程度で日本に到達してしまいます。

緊急速報メール（Jアラート）が、国から直接配信されます。万が一周辺に着弾が予想される場合、次のような身を守る行動を直ちにしてください。また周囲にいる人同士、声を掛け合って行動して下さい。▽屋外にいる場合、できる限り近くの建物の中や地下に避難する。▽建物がない場合、物陰に

万が一弾道ミサイルが周辺に着弾する恐れがある場合

緊急対処事態

- 1 危険物質を有する施設への攻撃
▽可燃性ガス貯蔵施設などの爆破、ダムの破壊など。
- 2 大規模集客施設などへの攻撃
▽ターミナル駅や列車の爆破など。
- 3 大量殺傷物質による攻撃
▽炭疽菌やサリンの大量散布など。
- 4 交通機関を破壊手段とした攻撃
▽航空機などによる自爆テロ。

万が一の事態とは

- 1 弾道ミサイル攻撃
▽特徴 発射前に着弾地域を特定することが困難。短時間での着弾が予想される。
▽留意点 攻撃当初は屋内（近くの建物の中や地下）へ避難し、その後状況に応じ行政機関からの指示に従い、適切に避難する。
- 2 航空攻撃
▽特徴 弾道ミサイル攻撃に比べ、その兆候を察知することは比較的容易。ただし、あらかじめ攻撃目標を特定することが困難。
▽留意点 屋内（近くの建物の中や地下）へ避難し、その後状況に応じ行政機関からの指示に従い、適切に避難する。
- 3 ゲリラ・特殊部隊による攻撃
▽特徴 突発的に被害が発生することも考えられる。被害は比較的狭い範囲に限定されるが、攻撃目標となる施設によっては、被害が拡大する恐れがある。
▽留意点 攻撃当初は一旦屋内に避難し、その後状況に応じ行政機関からの指示に従い適切に避難する。
- 4 着上陸侵攻
▽特徴 沿岸部や沿岸部に近い空港が攻撃目標となりやすい。国民保護措置を実施すべき地域が広範囲にわたるとともに、期間が比較的長期に及ぶことも想定される。
▽留意点 避難経路や手段などは行政機関の指示に従い、適切に避難する。

本文中に記載がないものは、原則として、対象となっても、費用無料、申込不要（定員の記載があり申込の記載がないものも、当日、直接会場へ）。
☒ 地区市民センター、☒ 出張所、☒ 生涯学習センター、☒ のみや表参道スクエア、☒ 地域コミュニティセンター、☒ 市民活動センター、
HP ホームページ、✉ エメールアドレス、

大規模テロや武力攻撃など 万が一の事態が発生したら

避難の仕組み

警報の発令・通知

避難の指示

避難住民の誘導

警報が発令・通知されたら
皆さんに直ちに取っていただきたい
自分で身を守る行動

■屋内

- ▽ドアや窓を全部閉める。
- ▽ガス・水道・換気扇を止める。
- ▽ドア・壁・窓ガラスから離れ低い姿勢をとる。

■屋外

- ▽近くの建物など、屋内に避難する。
- ▽自動車を運転中の場合は、道路外に車を止める。やむを得ず道路に止める場合は、道路の左端に止め、交通の妨げにならないようにする。

本市に被害が生じ、避難の指示が出たら
指示に従い落ち着いて行動

避難の指示に基づき、自宅から避難所へ避難する場合には、次のことに留意してください。

- ▽ガスの元栓を閉め、電気器具のプラグをコンセントから抜く。
- ▽頑丈な靴、長ズボン、長袖シャツ、帽子などを着用し、非常持ち出し品を持つ。
- ▽運転免許証など、身分を証明できるものを持つ。
- ▽家の戸締まりをする。
- ▽近所の人に声を掛ける。
- ▽避難経路や手段など、指示に従い適切に避難する。

被害を最小限にするため、皆さんに以下のようなご協力をお願いすることがあります

- 住民の避難や被災者の救援の援助
 - 消火活動、負傷者の搬送、被災者の救助などの援助
 - 避難救援に関する訓練への参加
 - 保健衛生の確保に関する措置の援助
- 衛生広報のために保健所などが作成したパンフレットの配布など

■避難住民の誘導 本市に

■警報の発令・通知 日本
に対する武力攻撃が迫った
場合、国が警報を発令しま
す。

万が一の事態に対する 行政の対応

この際、消火活動や負傷者の搬送など、住民の皆さんに協力をお願いすることがあります（左の図）。

身を隠すか、地面に伏せて頭部を守る。
▽屋内にいる場合 窓から離れるか、窓のない部屋に移動する。
また、避難の指示が出された場合は、上の図のように適切に避難してください。

8月19日に 総合防災訓練を実施しました



弾道（サイル攻撃を想定した訓練）（屋外にいる場合。地面に伏せて頭部を守りましょう）



危険物質を除染。

被害が生じ、避難の必要がある場合、消防・警察・自衛隊などが連携・協力して避難誘導を行います。

■救済活動 県・市・日本赤十字社などが力を合わせて、次の活動を実施します。

- ▽収容施設の設置や、食品・飲料水、生活必需品、医薬品などの提供。
- ▽行方不明者や家族と離れ離れになった人のための安否情報の提供など。

強化、立ち入り制限など。
▽危険物・毒物・劇物・高圧ガスなどの取扱所での製造禁止・制限など。
▽警戒区域の設定。
▽消火・救急・救助活動。

■被害の最小化 武力攻撃に伴う被害をできるだけ小さくするために、国・県・市が協力して、次の必要な措置を行います。
▽鉄道など生活に関連する施設の安全の確保、警備の

国では、国民保護の仕組みや実際に被害に遭ったときの行動などを、国民保護ポータルサイト <http://www.kokuminhogogo.jp/> で掲載しております。事前に確認しておきましょう。

国民保護をもっと詳しく



▲QRコード

2 ④危機管理課 ☎(632) 205

◎フリーダイヤル自殺予防いのちの電話 ▽日時 10月10日(火)午前8時～11日(水)午前8時 (24時間)
▽内容 死にたい・死のうと思っている人や、周囲にこのような人がいるときなどの自殺予防相談▽フリーダイヤル ☎0120(783)556。④栃木いのちの電話事務局 ☎(622)7970、保健予防課 ☎(626)1114